

会議録

会 議 名	令和 5 年度(2023 年度)第 1 回文化芸術振興評議会	
日 時	令和 5 年(2023 年)9 月 29 日(金) 午後2時~3 時 45 分	
場 所	学園都市センター 第2ギャラリーホール	
出席者氏名	評 議 員	垣内 恵美子氏、川崎 一泰氏、酒百 宏一氏、甘麻 節氏、船江 栄次氏、香川 良子氏、臼井 玲子氏、森田 美咲氏、西方 瑞紀氏
	説 明 者	南部学園都市文化課長
	事 務 局	小山市民活動推進部長、楳津主査、丸小主任
欠 席 者 氏 名	西川 柳時氏、中島 花実氏	
議 題	1 令和 4 年度の文化芸術事業の実施について 2 令和 4 年度の文化施設の管理運営状況について 3 その他	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由	-	
傍 聴 人 の 数	なし	
配 付 資 料 名	<p>[事前配付資料]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 評議会概要 ・資料 2-1 八王子市の文化芸術振興施策の概要 ・資料 2-2 令和4年度の文化芸術事業の実施状況 ・資料 3-1 文化施設の管理運営について ・資料 3-2 八王子市民会館(J:COM ホール八王子) ・資料 3-3 芸術文化会館(いちようホール) ・資料 3-4 南大沢文化会館 ・資料 3-5 夢美術館 ・参考資料 各施設のモニタリングシート <p>[当日配付資料]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・八王子市文化芸術振興評議会 評議員名簿 ・文化芸術事業に係る指標について ・夢美術館特別展のお知らせや八王子芸術祭パンフレットなど 	

議題 1 令和 4 年度の文化芸術事業の実施について

【事務局】 事務局から資料 2-1、2-2 及び当日配付資料に沿って説明。

- 資料 2-1 八王子市の文化芸術振興施策の概要

市の文化芸術事業は、法や条例はもとより、「八王子市文化芸術ビジョン(以下「ビジョン」という。）」に基づいて展開している。ビジョンでは「ささえる」、「そだてる」、「つたえる」、「こたえる」、「とどける」の 5 つの方向性を示し、それに沿って、市民の文化活動を推進し、文化芸術がより身近になるよう施策を展開している。

また、文化芸術施策の進捗管理は、この評議会の方でご意見をお聞きして、検証する流れとすることについてもビジョンに位置づけている。

- 資料 2-2 令和 4 年度の文化芸術事業の実施状況

令和 4 年度に行った文化芸術事業の主なものについて、ビジョンの 5 つの方向性に沿って説明した。

- 当日配布資料 文化芸術事業に係る指標について

文化芸術事業の効果を図るために、指標を設定している。令和 4 年度までは「定期的に文化芸術活動に参加している市民の割合」を指標とし、市政世論調査で確認している。令和 5 年度からは、市の新たな総合計画である「八王子未来デザイン 2040」に位置づけられる指標の「八王子の文化芸術に触れる機会がある市民の割合」を指標と設定した。これまで通り、文化芸術活動への参加を促すことは継続していくが、その中でも「八王子の文化芸術に触れる機会」を重点的に増やしていこうという意図でこの指標を設定した。

- 意見をお聞きしたい事項について

以上を踏まえて、本市の文化芸術施策が 5 つの方向性に沿っているか、あるいは、今後、文化芸術施策に取り組むうえでの新たな留意事項や配慮が必要な事項、事業の改善に必要と思われる事項などについて、ご意見をお聞きしたい。

【評議員】 令和 4 年度までの指標の設問は「この 1 年間に、どのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか」としているが、これはオンラインでの参加も含むのか。

【事務局】 オンラインでの参加も含んでいる。

【評議員】 令和 5 年度からの指標を「八王子の文化芸術に触れる市民の割合」としたが、「八王子の」というのは、どのような範囲を指すのかももう少し具体的に説明してほしい。

【事務局】 八王子で行われる文化芸術事業への参加も該当するし、八王子出身のアーティストの公演を他市で見た場合なども当てはまると考えており、幅のあるものと考えている。

【評議員】 文化芸術イベントを行ううえで、多くの方に来場してもらうために周知を図るのが難しいと感じている。チラシや SNS の活用など、今後の方向性を考えるためにどうしたらよいか、若い評議員のご意見をお聞きしたい。

【評議員】 私としては、チラシは不要と感じている。ネットでの周知は有効と思うが、市のホームページを見ることはない。若い人はインスタグラムや TikTok を見る人が多いのではないか。

【事務局】 若い人で、文化芸術活動に関心のない人に情報を届け、来場や参加などの具体的な行動に移してもらうには、どうするのが効果的なのか。

【評議員】 年代ごとに情報を得るための媒体は異なる。大まかな傾向でいうと、50代以上はチラシなどの紙、30、40代はX(旧 Twitter)、10、20代はInstagramやTikTokであるが、情報を得るのに一つの媒体だけということはない。いろいろな調査から、イベントなどの情報を認知して参加するという行動につなげるのに一番効果が高いのは口コミであることがわかっている。情報を様々な方法で発信してまず認知してもらい、そのうえで時間と可処分所得がある方が参加するという構造になっている。若い人たちが皆、無関心という訳ではない。

【評議員】 昨年度、八王子市と大学で調査を行ったところ、学生にはInstagramやTikTokが効果的なのは明らかなのだが、市がそうした手段で発信しようとしても、特定の事業者や個人に利する情報を発信できないため、学生など若者が求める情報ではなくなってしまい、効果は期待できない。学生など若者が求める情報を発信するには、文化芸術事業を行う財団などの団体や、学生をうまく活用するのがよい。また、民間事業者がよく使う手法だが、集客性のあるキラーコンテンツを設けてとにかくイベントなどに来てもらい、知ってもらおうというのでもよいのではないか。

それから、指標についてだが、意図が分かりにくいように思う。様々例示しているため、その範囲で回答が固定化してしまう。実際のアートや文化は本当に幅広い。そうした説明をアンケートに記載して、回答者の考えに委ねる形にしたほうがよい。文化芸術は幅広いものだとことを認識してもらおうことが大事なのではないか。

【事務局】 確かに、近年、アートや文化について概念が広がっているように思う。指標を「八王子の文化芸術に触れる市民の割合」としているが、より幅広くとらえてもらえるように、何か工夫が必要と感じた。

【評議員】 文化芸術の幅は広がっている。例えば、かつお節を作ることは食文化であるし、高尾山はそのものが文化的景観であるなど、文化に触れてない人はいないときえ言える。それを踏まえて、この指標で何を知りたいのか、どのような効果を計りたいのかなど、今一度整理をされたほうが良いのかなと思う。

【事務局】 市として、事業を行った成果や効果を計るために指標を設けて評価していかなければならない。どのような指標を設けるのがより適切か、判断が難しい部分はあるが、どのくらい事業が進んでいるのかを計り、評価し改善につなげていくために、この指標を設定した。

議題2 令和4年度の文化施設の管理運営状況について

【事務局】 資料3-1から3-5に沿って、各施設の概要、利用率、利用者数、管理運営状況など、令和4年度の実績について説明した。

運営状況や今後の管理運営において留意すべきことなど、ご意見を伺いたい。

【評議員】 議題1についての意見として、指標を「八王子の文化芸術に触れる市民の割合」としているが、費用対効果を計る指標で「八王子“の”」とする表現は、あいまいなため民間企業では使わない。設定するなら「八王子で開催された～」などとしたほうが、より適当と思う。

それから、文化活動をしている人や関心のある人だけでなく、関心のない層にいかにか足を運んでもらうか、どのような働きかけをすれば関心を得られるかが、今後のポイントになるのではないか。

また、長期的な対策となるが、できるだけ学齢の低い子どもたちから、文化芸術に触れる機会を増やすことが、文化芸術に関心のある方を増やすことにつながるのではないかと

思う。

それから、議題 2 について、施設の管理運営状況について評価しているが、「管理」と「運営」は別のものである。それぞれ分けて評価するほうがよいと思う。

【事務局】 指標は、市の総合計画の中で設定したところであり、ご意見は受け止めるものの、当面はこれでいくこととなる。

子どものころから文化芸術に触れる機会を持つことは、非常に重要なものと考えている。市では、子ども向けに車人形の体験講座をアウトリーチ事業として行っており、また、オーケストラの演奏を聴いたり、指揮者体験などができる事業も行っている。多くの小学生に参加してもらえよう、生徒数分のチラシを学校に配付するなどして周知を図った。

施設の管理と運営を区分したほうが良いのではとのご意見については、そのとおりと思う。今後の評価の際に表現を工夫したい。

【評議員】 指標の「八王子の」という部分に焦点が当たっており、その説明の中で「八王子に誇りを持ってもらう」という発言を聞いて思い出したが、八王子市内で暮らしてきた自分の子供は、これまで学校での車人形の体験や、遠足で高尾山に行くなどしてきたものの、郷土に誇りを感じている様子があまりないように思う。若い人たちに、八王子そのものの魅力を感じてもらい、誇りを持ってもらうことが大切なのではないかと思う。

【事務局】 本市としても、その点は重要と考えている。ご意見を聞いて、改めて若い世代に施策を届いていく必要性を認識した。

【評議員】 ビジョンは平成 28 年の策定時から変わらないのか。

【事務局】 令和 7 年度までが計画期間だが、令和 6 年度に改定に着手する予定である。

【評議員】 5 つの方向性は分かりやすく、非常に重要な視点である。ただ、文化芸術は 5 つの方向性の複数にまたがるものであることから、1 つの方向性だけでなく、複数の視点を絡めて捉えたほうが良い。1 つの方向性で内部の評価を捉えてしまうと数字が結果として判断されてしまうのではないか。文化芸術は幅広く拡張していくものであり、固定的な概念はなじまない。

【評議員】 文化芸術事業の発信について、情報媒体は紙、ネットそれぞれに良い点がある。ネットは情報へのアクセスが早く、紙媒体はこれまで興味がなかった事業でも目にするきっかけにもなる。文化芸術に関する情報を目にする機会を増やすために、例えば(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団に委託するなどして八王子の文化情報を発信するキャラクターを作り、細かな情報でも SNS で情報発信してみてもどうか。

子どものころから文化芸術に触れる機会を増やすことについて、小学生はもちろんのこと、未就学児向けの機会を増やしていくことも大切と考える。母親は「未就学児 OK」とする文化芸術事業を探しており、そのような事業を増やすことで、他自治体から八王子に来てもらえるきっかけにもなるのではないか。

【評議員】 自身は八王子市民ではないが、ビジョンは八王子市民に向けたものか、また市外の人にも来てほしいと考えているものなのか。

【事務局】 指標の調査は市民を対象に行っているが、ビジョンとしては市内外問わず八王子で行われる文化芸術事業に参加してほしいと考えている。

議題3 その他

【事務局】 会議録は1カ月をめぐりに作成し、公開する。